

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成21年7月30日 (2009.7.30)

【公開番号】特開2006-177379(P2006-177379A)
 【公開日】平成18年7月6日 (2006.7.6)
 【年通号数】公開・登録公報2006-026
 【出願番号】特願2004-368144(P2004-368144)
 【国際特許分類】

F 1 6 F 13/08 (2006.01)

B 6 0 K 5/12 (2006.01)

F 1 6 F 15/08 (2006.01)

【F I】

F 1 6 F 13/00 6 2 0 F

B 6 0 K 5/12 F

F 1 6 F 15/08 W

【手続補正書】

【提出日】平成21年6月11日 (2009.6.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

従来から、自動車等の車両においては、主たる振動発生源であるエンジンを含むパワーユニットから車体への振動伝達を抑えて優れた乗り心地を実現すると共に、車体に取り付けられた各種部材を振動から保護するために、パワーユニットが各種の防振支持機構（マウント装置）を介して車体に支持されている。

かかるマウント装置は、一般に、エンジン側に連結固定される取付部材である連結金具、車体側に連結固定される取付部材であるブラケット、連結金具とブラケットとの間に配設された吸振主体であるゴム弾性体等からなり、連結金具又はブラケットからの振動入力によりゴム弾性体が弾性変形することにより、振動を減衰吸収するようになっている（例えば、特許文献 1，2 参照）。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

またペンデュラム式懸架機構に用いられるエンジントルクロッドは、エンジンにおけるロール中心の外周側の部分と車体との間に介装され、そのエンジン側連結部と車体側連結部とを繋いだロッド部が略車両前後方向に沿って延在するように介装される。このようなエンジントルクロッドにも、エンジン側連結部と車体側連結部との間にゴム弾性体が配設されており、このゴム弾性体がロッド部の軸方向に沿って弾性変形することによりエンジン側からのロール荷重を吸収する。またエンジントルクロッドにも、エンジン側連結部と車体側連結部との間にゴム製のストッパが配設されるものがあり、このストッパは、エンジンのロール変位が一定量以上になるエンジン側連結部と車体側連結部との間で圧縮されて弾性的な反力を発生させることによりエンジンのロール方向の変位を制限する。なお、このようなエンジントルクロッドでは、ゴム弾性体の一部又は全体がストッパとしての機

能を有する場合もある。

【特許文献1】特開2001-214953号公報

【特許文献2】特開2002-250392号公報